

学校の規模・配置について

1 国の学校規模と配置に関する基本的な考え方

(1) 文部科学省の手引きから

○学校規模適正化に関する基本的な考え方

文部科学省の公立学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きでは、「学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になる。そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいと考えられる。このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要となる」としている。

また、学校教育は地域の未来の担い手である子どもたちを育む営みでもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っており、「学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子どもの保護者の声を重視しつつ、地域住民の理解と協力を得るなど丁寧な議論を行うことが望まれる」としている。

○学級数が少なくなることによる課題

学級数が少なくなることにより下記のような学校運営上の課題が生じる可能性があるとしている。

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい。
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。

- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる。
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

○複式学級となることによる課題

また、特に複式学級となる場合には直接指導と間接指導を組み合わせ、複数学年を教員が行き来しながら指導する必要がある場合が多いことから、以下のような課題も生じ得ることが指摘されている。

- ① 教員に特別な指導技術が求められる。
- ② 複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい。
- ③ 単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある。
- ④ 実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる。
- ⑤ 兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生ずる可能性がある。

○教職員数が少なくなることによる課題

また、小・中学校共通して、学級数が少なくなるに従い、配置される教職員数が少なくなるため、下記のような問題が顕在化し、結果として教育活動に大きな制約が生じる恐れがあることに留意が必要とされている。

- ① 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる。
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ④ ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる。
- ⑤ 教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- ⑥ 学年によって学級数や学級当たりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生ずる。

- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる。
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい。
(学年会や教科会等が成立しない)
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。

○小規模校のメリット

一般に小規模校には下記のようなメリットが存在すると言われている。

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる。
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる。
- ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、I C T機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である。
- ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。
- ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

(2) 国の学校規模の標準

学校教育法施行規則では、「小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とする」とし、「中学校に準用する」としている。また公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引では、学校規模の分類として、小学校で1～5 学級を過小規模校、6 から 11 学級を小規模校、12～18 学級を適正規模校、19～30 学級を大規模校としており、中学校では1～2 学級を過小規模校、3～11 学級を小規模校、12～18 学級を適正規模校、19～30 学級を大規模校としている。

3 児童生徒数の現状と今後の見込み

平成 36 年度児童生徒数見込みについて、A：大規模校（19～30 学級）、B：適正規模校（12～18 学級）、C：小規模校（小学校 7～11 学級、中学校 4～11 学級）、D：小規模校（小学校 6 学級、中学校 3 学級 ※クラス替えができない規模）、E：過小規模校（小学校 1～5 学級、中学校 1～2 学級）の 5 つに分類したとき、以下のように分類される。※D 分類、E 分類を網掛け

施設名	平成30年度				平成36年度					分類
	児童 生徒数	学級数	児童 生徒数	学級数	大規模校 19～30学級 A	適正規模校 12～18学級 B	小規模校		過小規模校 小1～5学級 中1～2学級 E	
							小7～11学級 中4～11学級 C	小6学級 中3学級 D		
横田小学校	209	8	134	6				○		D
成美小学校	293	11	278	12		○				B
博労小学校	289	12	201	8			○			C
定塚小学校	427	14	314	12		○				B
川原小学校	131	6	149	6				○		D
平米小学校	117	6	87	6				○		D
下関小学校	545	17	528	17		○				B
西条小学校	292	12	280	11			○			C
万葉小学校	199	8	180	6				○		D
伏木小学校	231	9	168	6				○		D
古府小学校	211	9	198	8			○			C
能町小学校	528	17	609	19	○					A
南条小学校	343	12	279	12		○				B
二塚小学校	180	6	139	6				○		D
野村小学校	629	18	848	26	○					A
国吉小学校	129	6	117	6				○		D
牧野小学校	519	18	553	18		○				B
太田小学校	70	6	66	6				○		D
東五位小学校	190	8	245	10			○			C
石堤小学校	52	5	33	4					○	E
千鳥丘小学校	250	9	151	6				○		D
戸出東部小学校	236	9	174	6				○		D
戸出西部小学校	365	12	362	12		○				B
中田小学校	255	11	192	9			○			C
木津小学校	312	12	394	13		○				B
福岡小学校	607	18	526	17		○				B
高陵中学校	304	9	270	9			○			C
高岡西部中学校	382	12	290	9			○			C
南星中学校	480	13	477	14		○				B
志貴野中学校	599	17	511	15		○				B
芳野中学校	699	20	652	19	○					A
伏木中学校	290	9	251	8			○			C
国吉中学校	81	3	60	3				○		D
牧野中学校	195	6	266	8			○			C
五位中学校	279	9	216	7			○			C
戸出中学校	355	10	282	9			○			C
中田中学校	149	6	113	5			○			C
福岡中学校	302	9	294	9			○			C

	児童生徒数（平成36年度推計）				
	大規模校 19～30学級 A	適正規模校 12～18学級 B	小規模校 小:7～11学級 中:4～11学級 C	小規模校 (1学年1学級) 小:6学級 中:3学級 D	過小規模校 小:1～5学級 中:1～2学級 E
小学校	野村小 能町小	定塚小 牧野小 下関小 木津小 成美小 南条小 戸出西部小 福岡小	東五位小 西条小 古府小 中田小 博労小	千鳥丘小 横田小 川原小 平米小 国吉小 伏木小 太田小 二塚小 万葉小 戸出東部小	石堤小
中学校	芳野中	志貴野中 南星中	五位中 高岡西部中 高陵中 伏木中 中田中 牧野中 戸出中 福岡中	国吉中	